

钦定大清会典事例



星圖十四

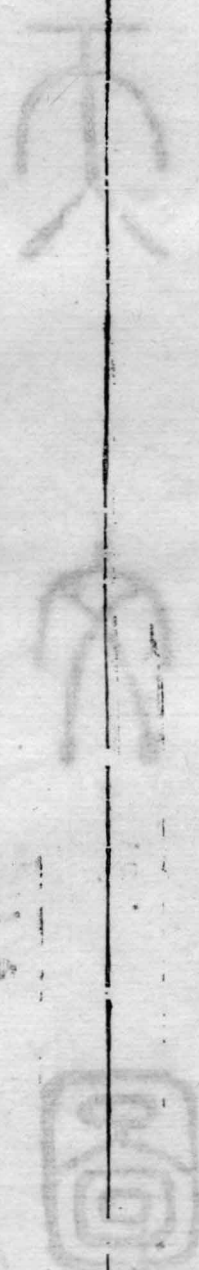
天賦制圓盤圖
天重天圖
黃赤深淵圖

天文

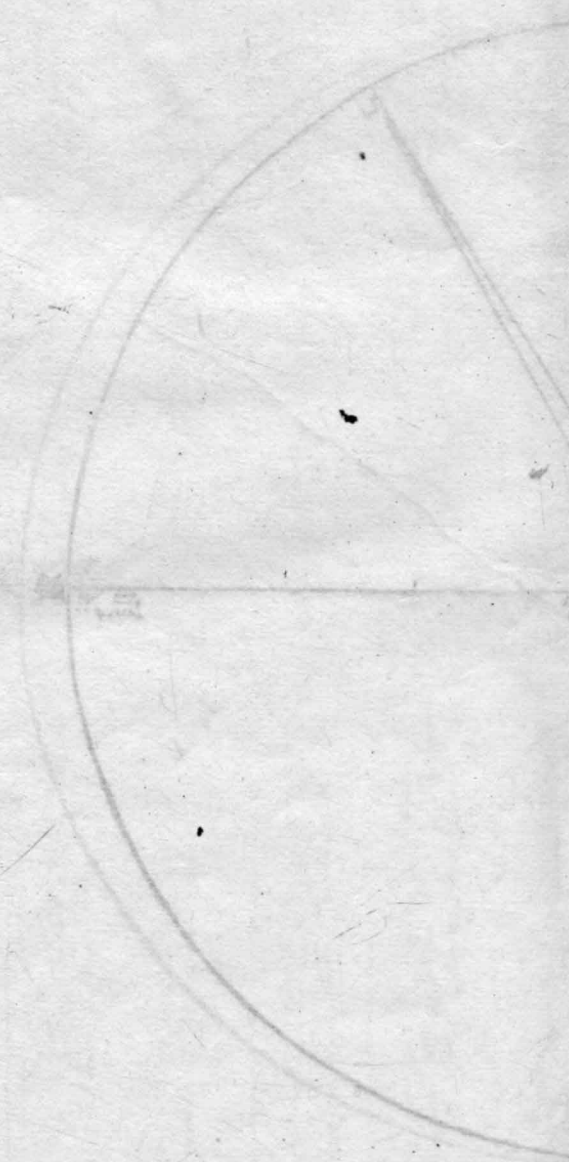
天文

天地渾圓體圖一
九重天圖一
黃赤道圖一
恒

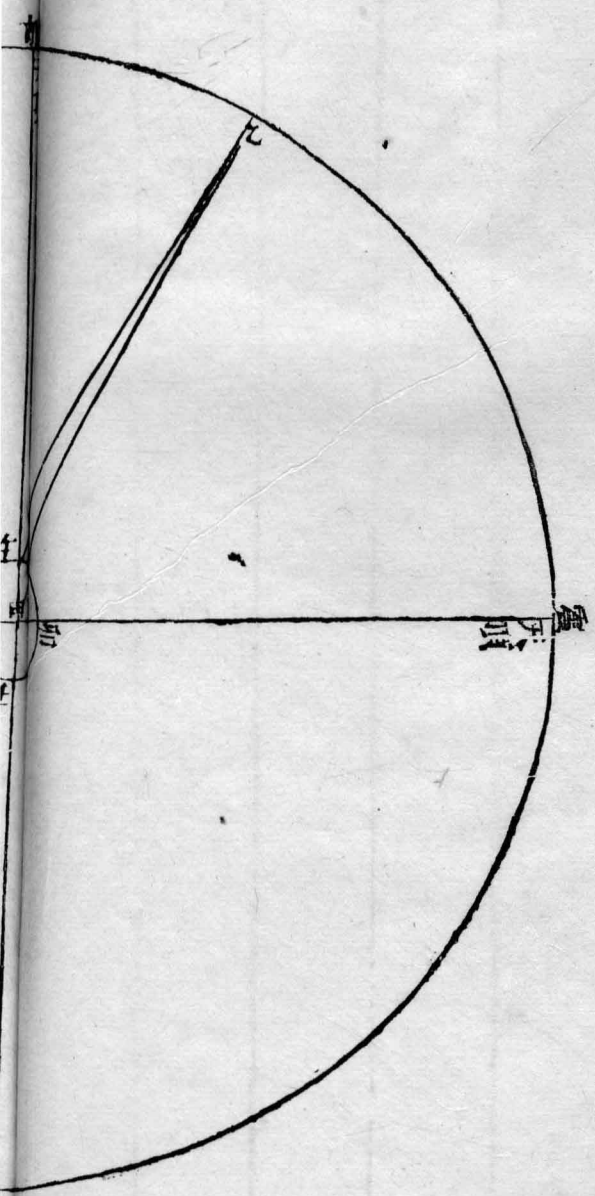
星圖十四。

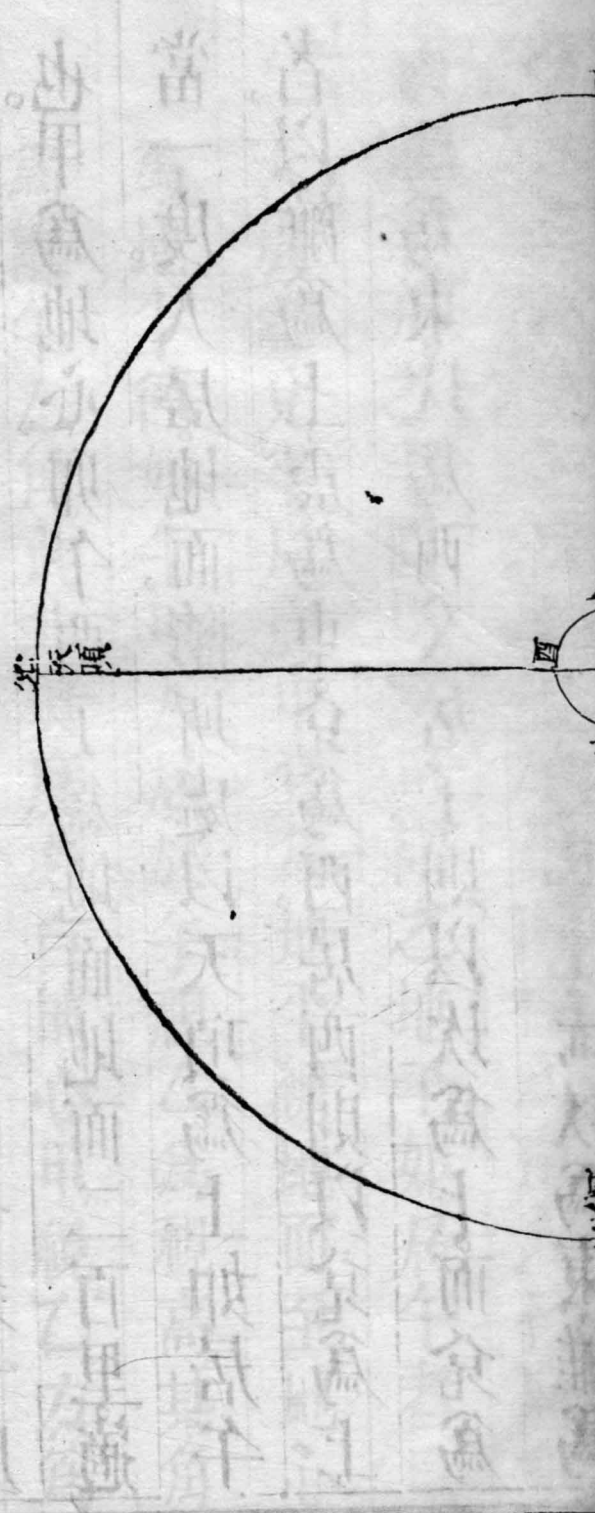


天淵神圖



天地渾圓體





中酒為半周眼半為一象則一象如昔共十製
 食為半周眼半為一象則一象如昔共十製
 昔共十製為一象則一象如昔共十製
 昔共三百六十製半周眼一百八十製又半之
 天此之數皆取圓天為眼此數天中其圓周

大正二年
 天文

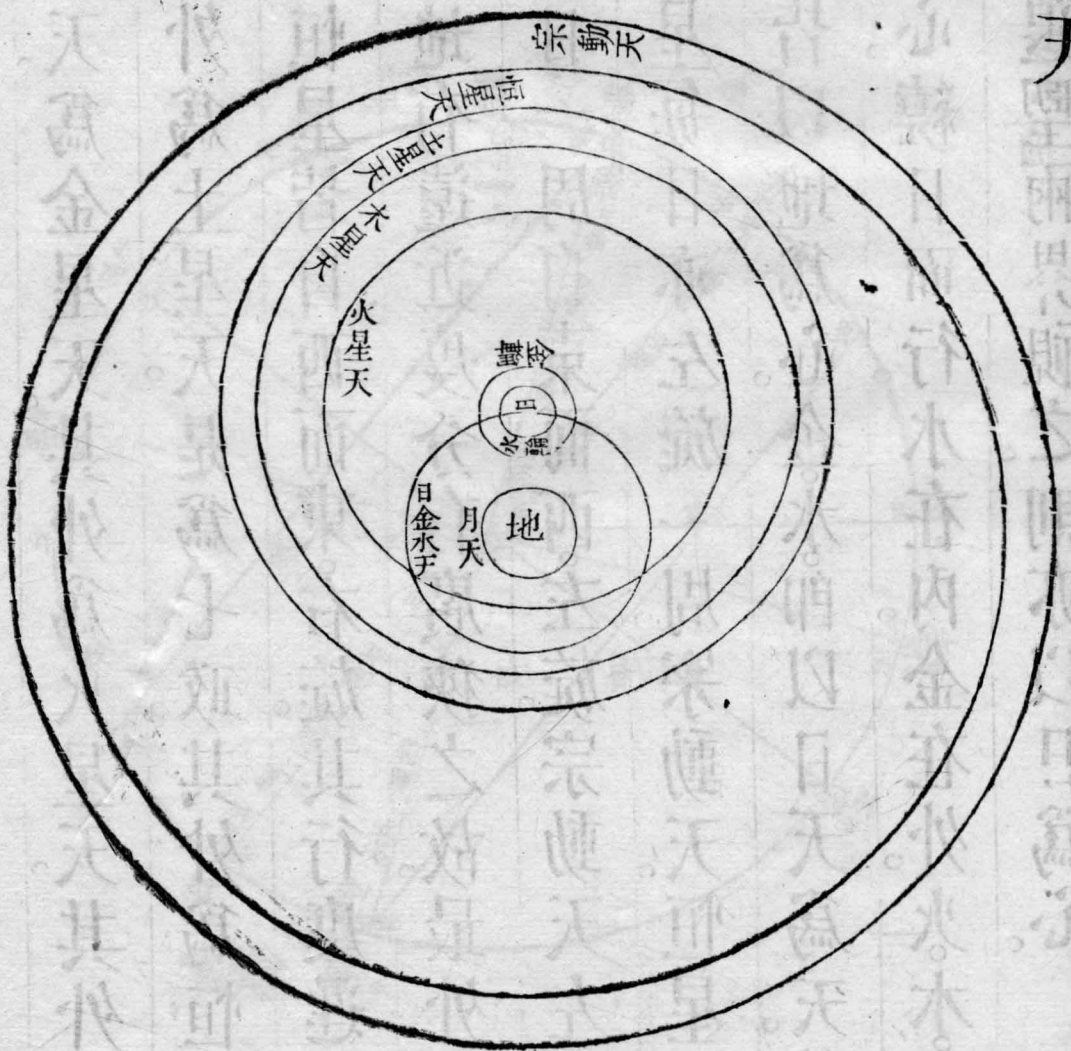
天地之體皆渾圓。天繞地外。地居天中。其圓周皆分三百六十度。半周皆一百八十度。又半之皆九十度。爲一象限。如坎震離兌爲天周。震離兌爲半周。震離爲一象限。子卯午酉爲地周。卯午酉爲半周。卯午爲一象限。一象限皆九十度也。甲爲地心。卯午酉子爲地面。地面二百里。適當一度。人居地面。隨所處以天項爲上。如居午者。以離爲上。震爲東。兌爲西。居酉則以兌爲上。而離爲東。坎爲西矣。居子則以坎爲上。而兌爲東。震爲西矣。居卯則以震爲上。而坎爲東。離爲

西矣。南北則以北極爲北、南極爲南。人目所視適見天之半圓周。故可謂之地平。如居午者。見天震離兌半周。震甲兌爲地平線。地面至地心爲地半徑。如午甲。人居於午視乙。爲視高。其角爲離午乙角。此非真度。必自地心甲視乙。方爲真高。其角離甲乙角。爲真度。離甲乙角必小於離午乙角。兩角相較之差。爲地半徑差。如午乙甲角。地平之上。又有清蒙氣差。清蒙氣者。地上游氣能升卑爲高。映小爲大。地平上最大差三十二分一十九秒。近天項漸小。至八十九度尙

差一秒。

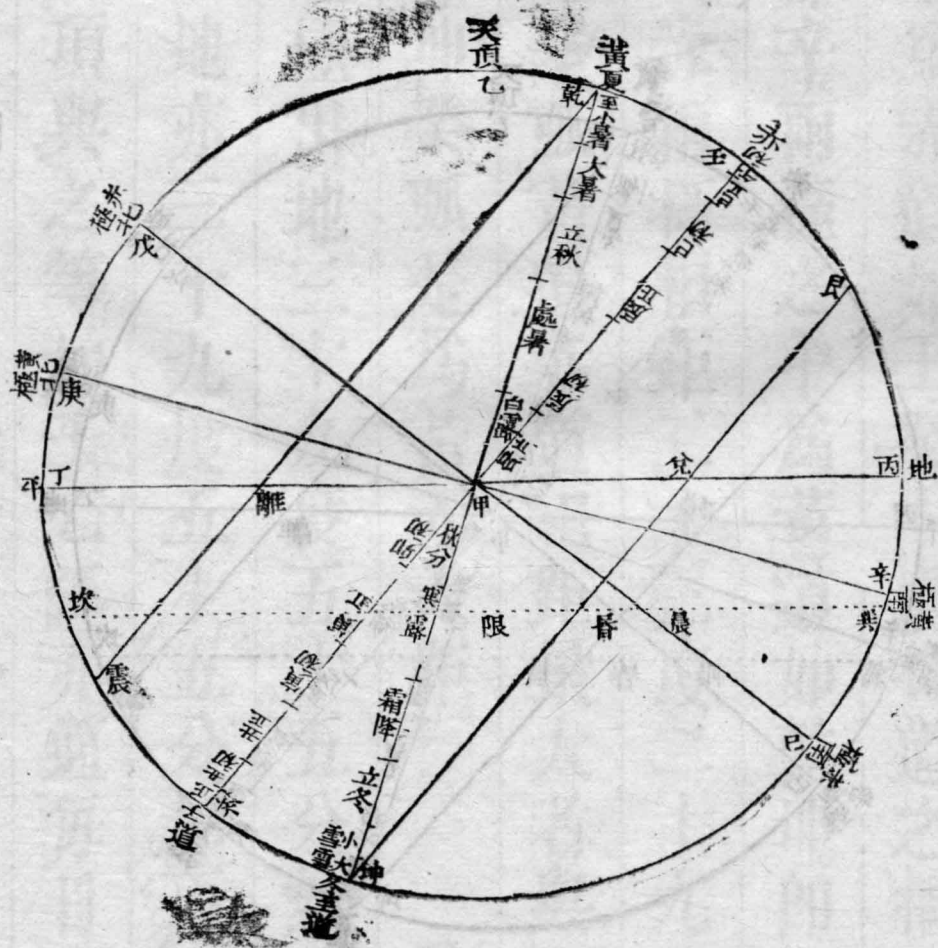
甲四... 平... 土... 文... 音... 部... 業... 餘... 音... 畢...
 念... 彌... 子... 心... 更... 與... 出... 轉... 之... 送... 以... 壯... 半... 於... 送... 賦... 于...
 午... 真... 萬... 其... 與... 甲... 心... 與... 為... 真... 與... 彌... 甲... 心... 與... 必... 少... 小... 外...
 也... 為... 彌... 子... 心... 與... 及... 非... 真... 與... 必... 自... 與... 必... 甲... 彌... 子... 心... 與...
 為... 與... 平... 與... 甲... 心... 與... 及... 非... 真... 與... 必... 自... 與... 必... 甲... 彌... 子... 心... 與...
 天... 與... 彌... 子... 心... 與... 及... 非... 真... 與... 必... 自... 與... 必... 甲... 彌... 子... 心... 與...
 而... 與... 天... 心... 與... 彌... 子... 心... 與... 及... 非... 真... 與... 必... 自... 與... 必... 甲... 彌... 子... 心... 與...
 西... 與... 南... 北... 與... 以... 北... 與... 為... 北... 南... 與... 為... 南... 人... 日... 與...

九重天



天有九重。距地最近者爲月天。其外爲日天。爲
水星天。爲金星天。其外爲火星天。其外爲木星
天。其外爲土星天。是爲七政。其外爲恒星天。七
政與恒星皆自西而東。右旋。其行度遲速不同。
因去地有遠近。度分有廣狹之故。最外爲宗動
天。每日一周。自東而西。左旋。宗動天左旋。挈七
政。恒星每日亦左旋一周。宗動天。恒星天。七政
本天。皆以地爲心。金。水。卽以日天爲天。其行以
日爲心。繞日而行。水在內。金在外。火。木。土。就合
伏與退望兩界視之。則亦以日爲心。

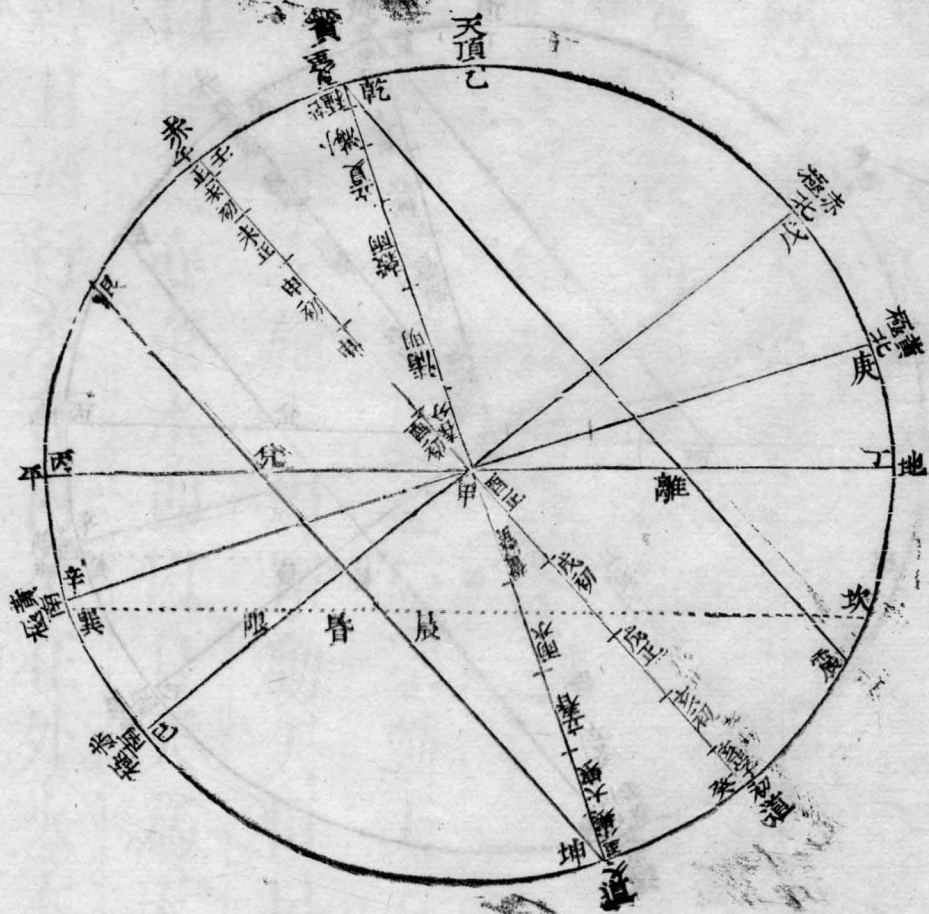
黃赤道面。東側



黃赤道

黃赤道

西側面



宗動天之樞爲南北極如戊辰如巳卽赤極如
之中爲赤道如壬癸太陽行道之樞爲黃極如
庚如辛兩極之中爲黃道如乾坤卽太陽所行
道黃赤兩極相距二十三度二十九分如戊庚
弧己辛弧黃道赤道相距最大者與之等如乾
壬弧坤癸弧是爲黃赤大距。

京師北極出地三十九度五十五分如戊丁弧南
極入地亦三十九度五十五分如丙己弧赤道
距天頂與之等如壬乙弧赤道每日一周左旋
十二時所從生也勻分赤道每一宮爲一時以

日出地平上最中處為午正日入地平下最中處為子正交於地平處為卯正西正黃道每歲一周右旋二十四節氣所從生也勻分黃道每京十五度為一氣黃道與赤道斜交適當交處為春秋分如甲春分後出赤道北至夏至而極北如西側面圖之甲乾弧北距天頂十六度或十六分如乾乙弧夏至後漸近南至秋分而與赤道交如東側面圖之乾甲弧秋分後出赤道南至冬至而極南如東側面圖之甲坤弧冬至後漸近北至春分而與赤道交如西側面圖之坤

甲弧黃道自南迤北自北迤南赤道每日左旋
擊黃道而亦左旋則每日太陽所在者成一左
旋圈惟春秋分與赤道合如至夏至則成震乾
乾震一圈至冬至則成坤艮艮坤一圈此圈與
赤道平行而相距等謂之距等圈夏至太陽行
於震乾乾震圈出地平上者多如離乾故晝長
入地平下者少如離震故夜短冬至太陽行於
坤艮艮坤圈出地平上者少如兌艮故晝短入
地平下者多如兌坤故夜長又太陽在地平下
十八度地平上卽有光爲矇影限卽晨昏限如

巽坎日出當此限爲晨限日入當此限爲昏限
黃道赤道地平各有經緯度黃赤道以東西爲
經南北狹而中腰當黃赤道處最闊以南北爲
緯南北圈小中腰當黃赤道處圈最大地平以
天頂爲樞四圍爲經度當地平最闊至天頂漸
狹上下爲緯度當地平圈最大至天頂圈漸小
地球經緯度與赤道應月五星各有經緯度合
兩曜相較其經緯不相合者皆爲升度差